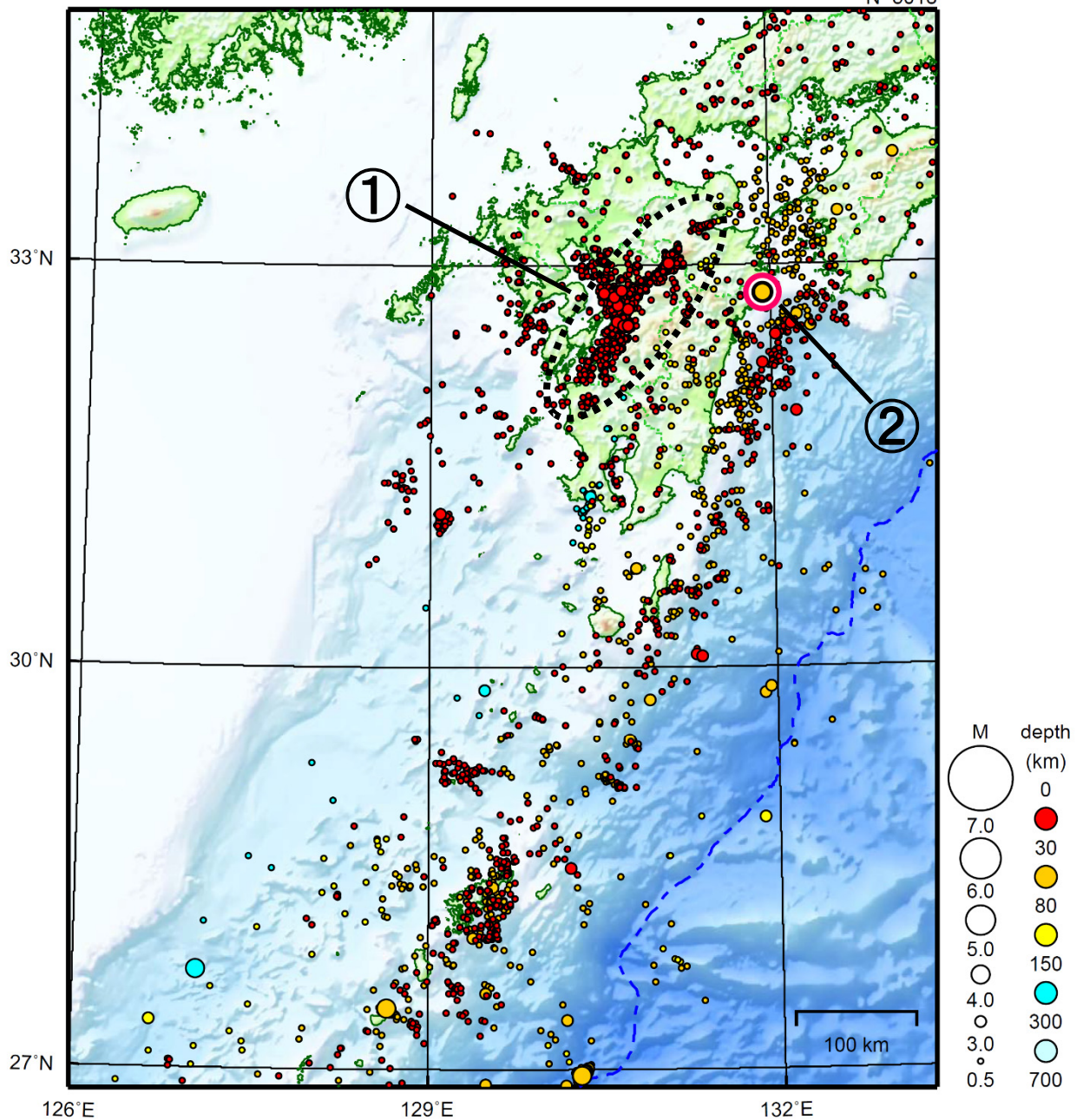


九州地方

2016/10/01 00:00 ~ 2016/10/31 24:00

N=5018



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 「平成 28 年(2016 年)熊本地震」の活動域では、今期間に震度 4 以上を観測する地震は発生しなかった。
- ② 10 月 22 日に大分県南部で M4.6 の地震（最大震度 4）が発生した。

〔上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。〕

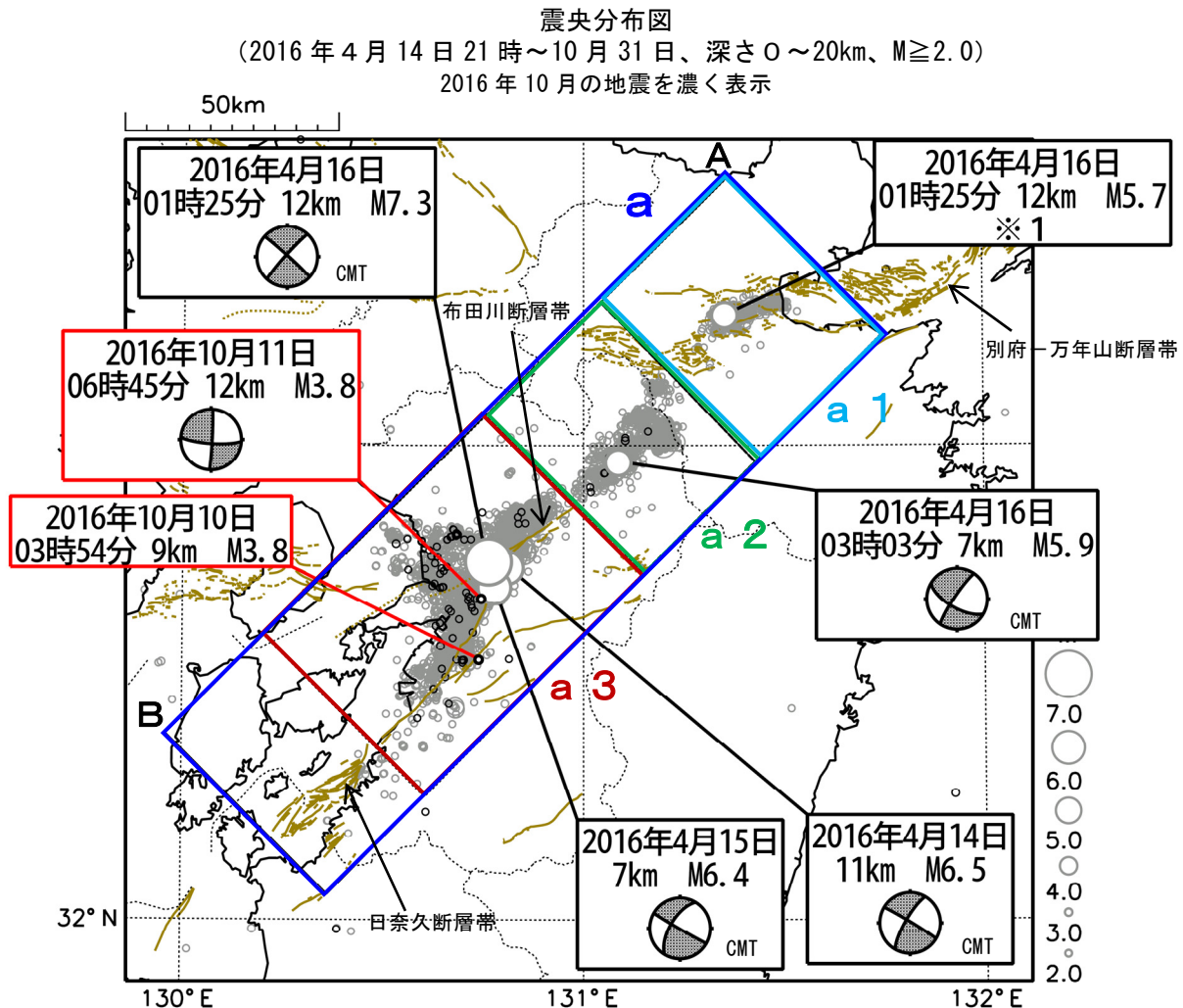
「平成 28 年（2016 年）熊本地震」

今期間、最大震度 3 以上を観測した地震は 4 回発生した。このうち最大規模の地震は、10 月 10 日 03 時 54 分に、熊本県熊本地方で発生した M3.8 の地震と 10 月 11 日 06 時 45 分に、熊本県熊本地方で発生した M3.8 の地震である。10 月 11 日 06 時 45 分に発生した地震の発震機構は、北西－南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

熊本県熊本地方（領域 a 3）及び阿蘇地方（領域 a 2）における「平成 28 年（2016 年）熊本地震」の一連の地震活動は、全体として引き続き減衰しつつも、活動は継続している。

10 月中に震度 1 以上を観測した地震は 55 回（最大震度 3：4 回、最大震度 2：10 回、最大震度 1：41 回）発生した。なお、熊本県熊本地方及び阿蘇地方では、10 月に最大震度 4 を観測する地震は発生せず（9 月は 2 回発生）、最大震度 3 を観測する地震が 4 回（9 月は 7 回）発生した。

今回の一連の地震活動により、死者 139 人、負傷者 2,581 人、住家全壊 8,298 棟などの被害が発生した（10 月 27 日 10 時 00 分現在、総務省消防庁による）。

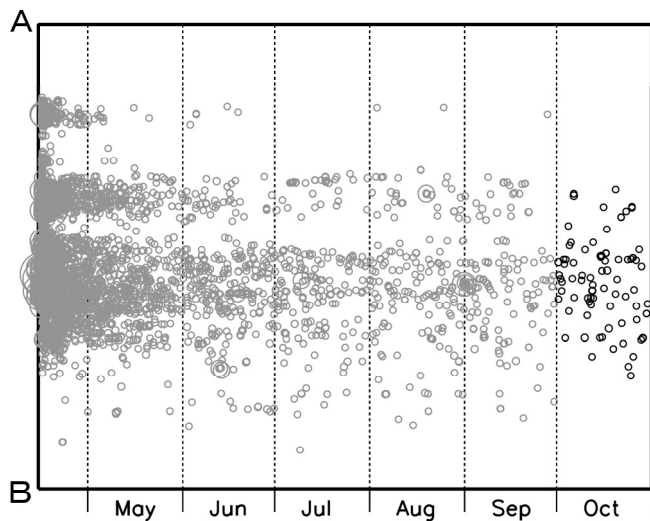


図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

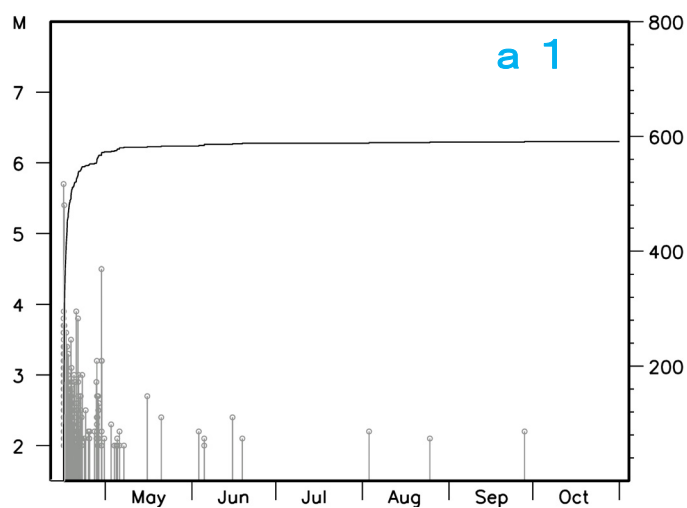
M6.0 以上の地震と各領域で最大規模の地震（10 月の地震は最大規模の地震）に吹き出しをつけている。

※1 M7.3 の地震の発生直後に発生したものであり、M の値は参考値。

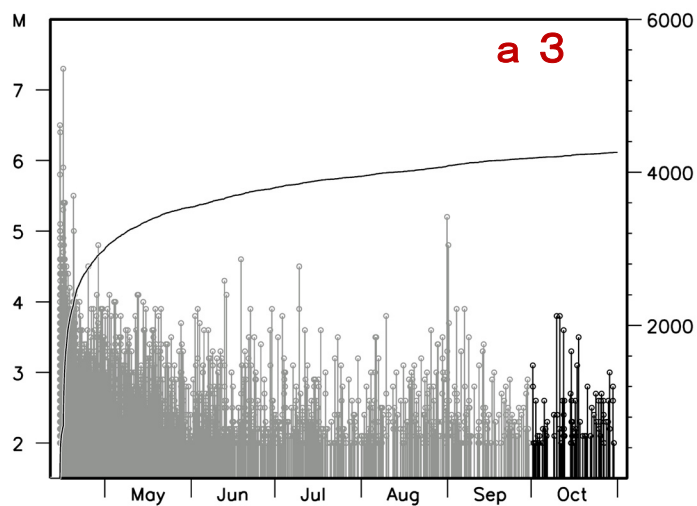
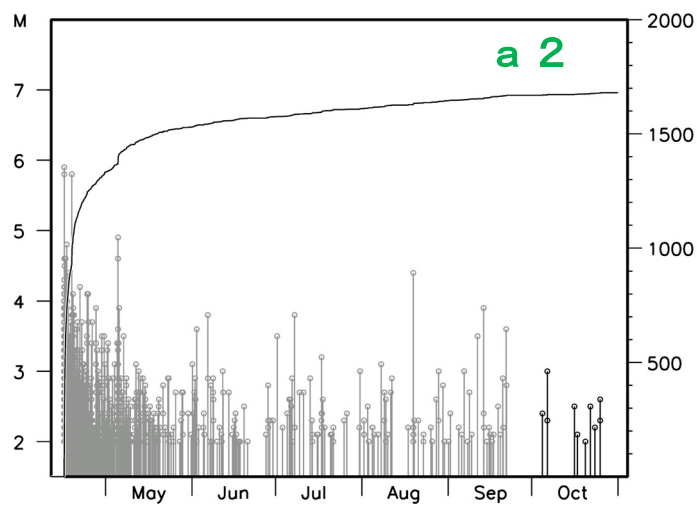
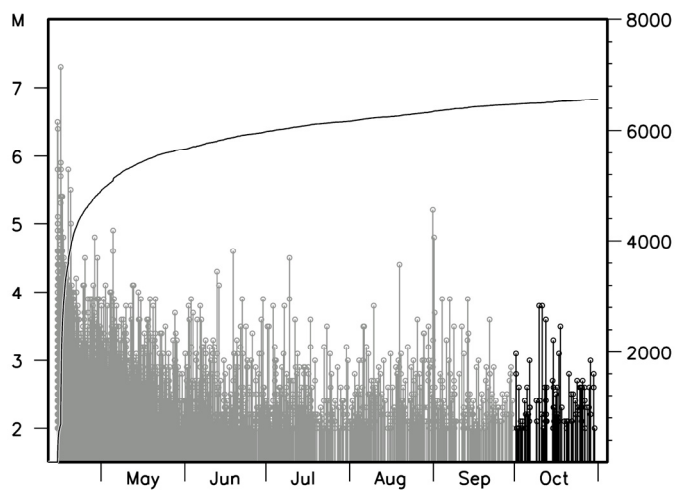
領域 a 内の時空間分布図（A－B 投影）
（2016 年 4 月 14 日 21 時～10 月 31 日）



領域 a1, a2, a3 内の M－T 図及び回数積算図
（2016 年 4 月 14 日 21 時～10 月 31 日）



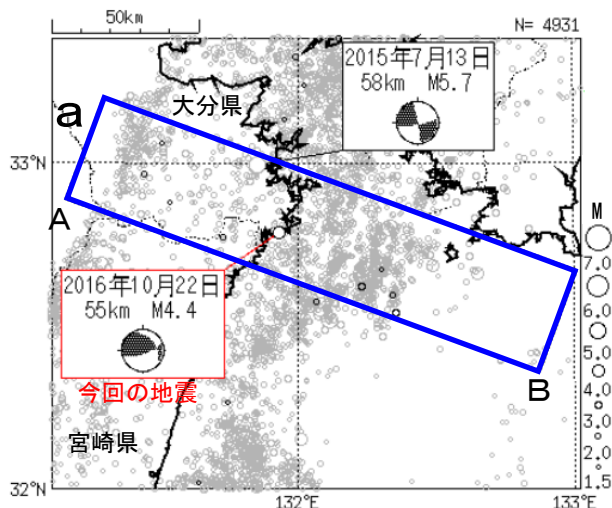
領域 a 内の M－T 図及び回数積算図



10月22日 大分県南部の地震

情報発表に用いた震央地名は「日向灘」である。

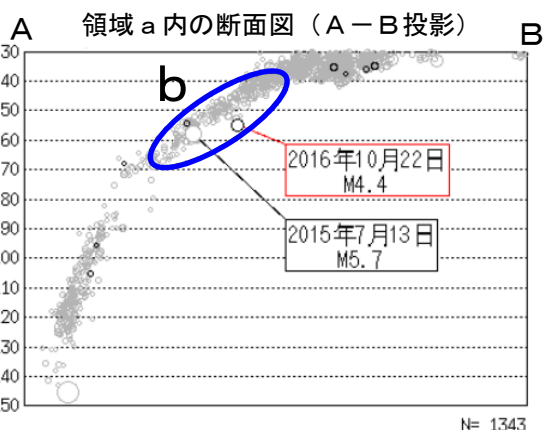
震央分布図
(1997年10月1日～2016年10月31日、
深さ30～150km、 $M \geq 1.5$)
2016年10月の地震を濃く表示



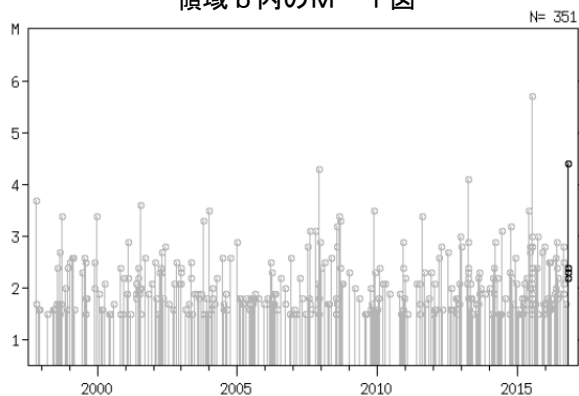
2016年10月22日03時33分に大分県南部の深さ55kmでM4.4の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、発震機構が北西－南東方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M4.0以上の地震が3回発生している。このうち2015年7月13日に発生したM5.7の地震（最大震度5強）では、負傷者3人、住家一部破損3棟などの被害が生じた。

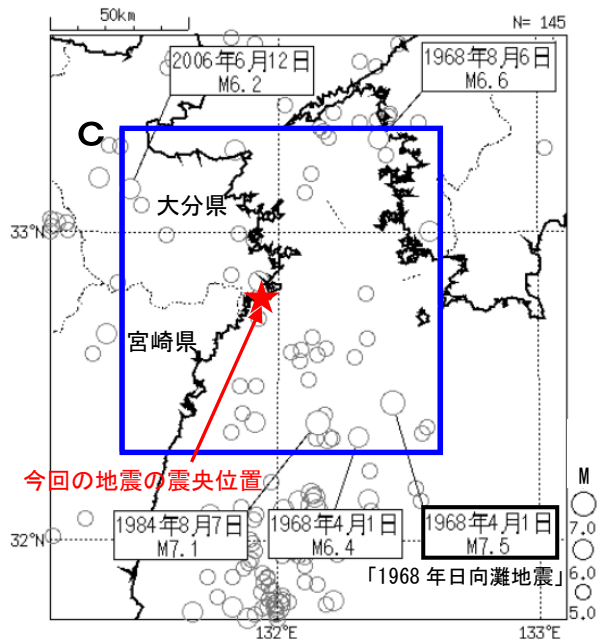
1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M7.0以上の地震が2回発生している。「1968年日向灘地震」（M7.5、最大震度5）では、負傷者57人、住家一部破損7,383棟などの被害が生じ、土佐清水で236cm（最大全振幅）などの津波を観測した。また、1984年8月7日に発生したM7.1の地震（最大震度4）では、負傷者9人、建物一部破損29棟などの被害が生じた（「日本被害地震総覧」による）。



領域b内のM-T図



震央分布図
(1923年1月1日～2016年10月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)



領域c内のM-T図

